

# 民話をたずねて奥多摩の旅

世田谷区 澤井正治

梶原さんを委員長とする“21世紀のライフスタイルを考える特別委員会”主催で、今年5月開催の教育フォーラム参加者と都民の会の希望者合同で22日・23日に奥多摩にある民話を語ってくれる民宿へ、一泊旅行に行きました。宿は、小林さん（梶原さんの恩師）の学友が経営する荒澤屋ということで、旅行の設定の一切切を小林さんにお願しました。

22日の午前10時に青梅線立川駅に集合と言うことでしたが、直前に11時集合が10時に繰り上がったため、間違える人がいるのではないかと気を揉みました。案の定、佐藤御夫妻がお見えにならず、先行し、奥多摩駅で再会できるだろうと出発しました。

電車の中では小学生の遠足気分で、こんな旅行もあったんだな、としみじみ感じました。奥多摩駅に到着、あいにくの小雨模様で、ハイキングを強行するか天気的好転を待って翌日まわしにするかの決断に迫られました。小林リーダーが直ちに駅頭に居る地元の人に訪ねました。すると、明日は晴れる公算が強い、との返答。小林リーダーいわく、地元の人のお勧めはあたるものなんだ。

で、ハイキングは翌日とし、近場の神社、博物館を見て、時間をつぶすこととしました。まずは腹ごしらえ、駅前の食堂でいつもラーメンという人が居ますが、小生は地元の山菜定食としました。で、地元出身の日本画家玉堂の美術館をたずね、しばし日本画を鑑賞しました。

そして、地元の酒蔵、澤之井酒造を見学しました。澤之井は村の名の澤井をそのまま使うと気が引けるので之を入れて澤之井になりました。創業は古く、100年の歴史を持っているという事でした。醸造過程を見学する中で、最高級銘酒「梵（ぼん）」を飲みました。梵とは全てということで、すべてを包含するという仏教用語です。沢井という村の名は、中里介山の長編小説「大菩薩峠」で承知していました

が、沢井、軍畑とかの地名が出てくると何となく、小説の中の話ではありますが、故郷に来たような気になりました。後に盲目になってしまう、主人公の机龍之介はこの地で剣の腕を磨きました。

宿へ帰って、風呂・夕食で、夕食時には小林さんの教え子がさらに加わり、しばし世代を越えた歓談が続きました。治田代表の女性親・結婚親は、座に出てきていた女性陣から、かなり批判されていました。戦前派と戦後派で、結婚親・女性親・人生親はかなり違うものと思われれます。特に第二次大戦については風化しつつありますが、実体験したものは語り継ぐ義務を持っていると思いました。

夕食後、いろいろ端で投宿した荒澤屋の主人による民話が語られました。三話ほど聞きましたが、小生は出身が関西ですので地元の方がもう少し理解できませんでした。締めは、桐のたんすの落とし話で落着きました。

翌日はハイキングです。このために購入した新品のトレッキング・シューズで張り切って行きました。佐藤御夫妻は高齢ですのでバスで行き、昼食時に落ち合おうということになりました。「奥多摩むかし道」をテクテクと歩きましたが、途中すれ違う登山客とはお互いに「こんにちわ」とか「頑張って」を掛け合い、良いムードでした。むかし道から眺める紅葉はやや時期が過ぎていて、真っ盛りというわけではありませんでした。しかしながら、山の空気は快いものでした。

とにかく、久しぶりに身体を使う旅でした。男性ばかりの旅行だと、翌日に酒が残るのが通常ですが、今回は心地よい疲れということで、また出かけたいと思う旅でした。幹事さん、ありがとう。

〔参加者〕梶原・西田・佐藤御夫妻・江崎・治田・澤井・中村・小林・熊田・玉田・大西・花井

## 謹んで新年のお祝詞を申し上げます

拝啓 謹んで新年のお祝詞を申し上げます。

旧年中は格別のご高配を頂き厚く御礼申し上げます。私ども民主党は結党から二年目を迎えました。残念ながら現在の政治は、私たちが考えるものとは大きく異なります。

「国民の生命、財産を守る」のが政治の基本だとすれば、政府が取り組む安全保障政策、経済政策とも甚だ頼りないと言わざるを得ません。

銀行に無原則に一〇兆円資金を補助する政府の方式では日本の沈没は止まりません。資金を投入するにしても銀行の経営者の退任、経営者への損害賠償請求、経営情報全面公開がセットで実施されなければ一〇兆円は銀行にとってもらい得となり、経営は改善されません。

政府は一三年間で六三〇兆円（国民一人当たり六〇〇万円以上）もの公共事業への投資を決めています。税金をドブに捨てていると言っても過言でない事業が多くあります。ムダを大胆に削り景気対策、高齢者福祉に使うべきです。

私たちは皆様の税金を守るために闘って参ります。この度、豊島区・練馬区東部を地域とする民主党東京第一〇区支部が設立され、私が支部長を拜命致しました。皆様のご意見を拜聴させて頂きたく、お願い申し上げます。

本年も皆様のご清福を、心からお祈り申し上げます。

平成十年元旦

敬具  
民主党東京第一〇区支部  
支部長 ながつま昭 拝